

## 詩篇119篇41～48節

- 41 主よ。あなたの恵みと、あなたの救いとが、みことばのとおり、私にもたらされますように。
- 42 こうして、私をそしる者に対して、私に答えさせてください。私はあなたのことばに信頼していますから。
- 43 私の口から、真理のみことばを取り去ってしまわないでください。私は、あなたのさばきを待ち望んでいますから。
- 44 こうして私は、あなたのみおしえをいつも、とこしえまでも、守りましょう。
- 45 そうして私は広やかに歩いて行くでしょう。それは私が、あなたの戒めを求めているからです。
- 46 私はまた、あなたのさとしを王たちの前で述べ、しかも私は恥を見ることはないでしょう。
- 47 私は、あなたの仰せを喜びとします。それは私の愛するものです。
- 48 私は私の愛するあなたの仰せに手を差し伸べ、あなたのおきてに思いを潜めましょう。

וַיְבֹאֵנִי חֶסֶדְךָ יְהוָה תְּשׁוּעָתְךָ כְּאִמְרֹתֶיךָ  
 וְאֶעֱנֶה חֶרְפִּי דָבָר כִּי־בִטְחֹתִי בְּדִבְרֶיךָ  
 וְאַל־תִּצַּל מִפִּי דְבַר־אֱמֶת עַד־מָאֵד כִּי־לִמְשַׁפְּטֶיךָ יִחְלָתִי  
 וְאֶשְׁמְרָה תּוֹרָתְךָ תְּמִיד לְעוֹלָם וָעֶד  
 וְאַתְהִלְכָּה בְּרַחֲבָה כִּי פְקֻדֶיךָ דָּרְשֹׁתִי  
 וְאִדְבָּרָה בְּעֵדוּתֶיךָ נֶגֶד מְלָכִים וְלֹא אֲבוֹשׁ  
 וְאֶשְׁתַּעֲשַׂע בְּמִצְוֹתֶיךָ אֲשֶׁר אֶהְבֵּתִי  
 וְאֶשְׂא־כִפִּי אֶל־מִצְוֹתֶיךָ אֲשֶׁר אֶהְבֵּתִי וְאֶשְׁיָחָה בְּתִקְוֶיךָ

ヘブル語アルファベットの第六字「ワ」です。この文字は基本的に「そして (and)」の意味を持つ接続詞で、接頭辞として単語の頭に付きます。

この箇所各節にも「神のことば」を表す語が出てきますが、43 節には「真理のみことば」だけでなく「あなたのさばき」という類義語が出てきますし、48 節でも「あなたの仰せ」「あなたのおきて」と二つのことばが登場します。一節につき一語ということでもないということに気づかされます。

41～43 節には、詩人を「そしる者」に悩まされながら神に祈る姿が描かれています。この箇所を特徴づけることばを緑に色づけしてみました。まず詩人が「恵み」と「救い」を求めているところに、彼のへりくだった心が現れているでしょう。自分の力で物事を解決しようとしているのではなく、自らも罪人であることを自覚しながら、主の憐みによって救いの御手もたらされることを願っているのです。私たちは誰かとのトラブルに巻き

込まれたとき、自分の義を立てることに躍起になりやすいものです。自分の問題はさておき、相手の非を何としてでも暴こうする。しかし、そのような姿勢では真の解決に結びつかないことが多いものです。この詩人のように、自分が神の御前にどのような存在であるかを問いつつ問題の解決を委ねていく姿勢が大切でしょう。

44～48 節では、主の御言葉に聞き従う決意が表明され、どのような相手に対しても毅然とした態度で真理を語る備えができていたことが強調されています。「**王たちの前で**」という表現は、彼がこれから法廷に立つことが前提とされているようです。世の為政者の前で真理を証した人々として、ペリクスやアグリッパの前で大胆に福音を語ったパウロ（使徒 25-26 章）、ユダヤ教最高議会や総督ピラトの前で沈黙を保たれた主イエスの姿（マタイ 26-27 章、マルコ 14-15 章、ルカ 22-23 章、ヨハネ 18-19 章）が思い起こされます。主イエスは終始無駄なことばを発することはなさいませんでした。最も重要な部分では僅かなことばをもって真理を証しされました。偽証者は真理を隠すために多くの言葉を用いるものです。この詩人もまた、どこにあっても主の「**みおしえ**」「**戒め**」「**さとし**」だけを語ろうと心に誓いました。

47～48 節で注目に値するのは「**愛する**」(אהב /アーハヴ) ということばが二度も出てきていることです。これは人格的な愛情として用いられることの多い用語であり、詩人が神のことばをそのようなものとして認識していたことが分かります。御言葉を知っている、読んでいる、研究している。それは立派なことですが、それ以上に「愛する」ことができるものなのです。新約の光に照らしてみるならば、御言葉を愛するとは主イエスご自身を愛することにほかなりません。

**だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。……あなたがたが聞いていること**

**ばは、わたしのものではなく、わたしを遣わした父のことばなのです。**（ヨハネ 14:23-24）

私たちキリスト者は、主イエスのことばをよく読み、主イエスを愛し、その御言葉を道しるべとして歩いていくことができます。そのように生きている人を、父なる神様は御子イエスを愛するように愛してくださるでしょう。